

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①学習意欲や思考力・判断力・表現力等高める授業改善に取り組む。 ②より高い進路実現に対応した教育課程を編成する。	①県立高校改革(I期)におけるICT利活用授業研究推進校として、2年目の取組を充実させる。 ②教育課程に関する課題の検討を継続し、次期学習指導要領改訂に向けて、全職員で情報を共有する。	①アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業づくり及びICT利活用授業の推進のため、研修会・研究授業を1回以上開催し、職員全体の意識を高める。 ②短期的及び長期的課題の解決に向けて、情報を提供しながら、教科代表者会議を計画的に実施する。	①生徒による授業評価アンケート結果や研究授業後の協議などを踏まえ、校内授業研究を推進することができたか。 ②平成29年度入学生3年次の自由選択科目に係る課題を解決できたか。	①生徒による授業評価アンケート結果及び学習状況の分析を元に授業改善を進め、主体的な学習を促進した。 ②3年次自由選択群配置を確定し、大学入試改革や次期学習指導要領に係る諸課題を問題提起し、教員の意識を高めた。	①各教科の効果的な事例を共有した実践を継続し、次年度の課題であるBYODの利活用について、その可能性を教科会議等で検討、研究成果を共有する。 ②平成30年度入学生以降の指導要録記載に係る方針を立てるとともに、次期学習指導要領における本校の教育課程のあり方について、各教科の意向を集約しながら、検討を継続する。	①iPadなども多様に取り入れ、情報の授業だけでなく通常の授業でもICTを活用し、効果的に授業改善に取り組んでいることを改めて認識した。 (学校評議員) ②より高い進路実現を目指す上で、学校行事や部活動のウェイトが大きく、バランスよく取り組むことが難しい。十分に学力を身に付けられているのか疑問もある。 (学校評議員・保護者)	①昨年度に続き、生徒の主体的な学習意欲を高められたが、今後、BYODの利活用をはじめ、ICT利活用授業研究推進校として、研究まとめの完成と発信が課題である。 ②平成29年度入学生3年次自由選択科目群配置を修正したが、次期学習指導要領告示後、速やかに取り組むことが難しい。十分に学力を身に付けられているのか疑問もある。 (学校評議員・保護者)	①ICT利活用授業研究のまとめに取り組みつつ、BYODに係る情報収集や、研修会・研究授業・授業互見を充実し、生徒の主体的な学習意欲をより高める授業実践例を蓄積する。 ②次期学習指導要領の告示を受け、平成34年度からの年次進行実施(予定)に向けた新教育課程の検討を開始する。
2 生徒指導・支援	①学校行事・生徒会活動等を通じ、望ましい生徒集団を育成する。 ②部活動の活性化を図り、安全面に配慮した活動や地域に貢献する意識を高める。	①個に応じた相談・支援体制を充実させる。 ②生徒主体の学校行事・生徒会活動の企画運営に係る組織的な支援体制をさらに見直すとともに、けがや熱中症の予防に努める。	①教育相談コーディネーターを中心に、ケース会議の開催やスクールカウンセラー等と連携した支援を行う。 ②各行事・活動ごとのねらいを踏まえ、行事・活動を通じて育みたい力を具体化し、リーダーの育成を支援するとともに、顧問総会・部員総会の開催時に、安全面の配慮を啓発する機会をさらに設ける。	①生徒の状況に応じて速やかにケース会議を開催し、スクールカウンセラー等と連携した支援を行ったか。 ②関係グループや各学年で共通理解を図り、支援体制を見直すとともに、けがや熱中症などを効果的に予防することができたか。	①不登校生徒支援のため、SCと連携し、SSWを交えたケース会議を開催した。 ①学校行事・生徒会活動を通して、諸規定を順守させる指導を共有し、主体性や自他尊重の態度を育んだ。 ②顧問総会(1回)や部長会(5回)を通して部室管理や安全対策に係る啓発を充実させ、重大事故発生を防止するとともに、地域の活動に複数の部が参加し、地域に貢献した。(実績12回)	①状況に応じた速やかな生徒支援が行えるよう、組織的な生徒相談の取組について情報を収集し活用する。 ②多くの生徒が学校行事や部活動に主体的・積極的に参加しているが、自己表現が苦手な生徒を見守り、支援する体制の見直しは課題であり、教員間で共有し、個に応じた支援を充実する。 ②普通救命講習において、外部講師を招いてAEDの取り扱いを学んだことをいかし、今後も命の尊重やケガの対処について理解が深められるような機会を設ける。	①教育相談体制の充実が図られており、SCやSSWが生徒のみならず保護者も支援していることは大変評価できる。 ①コミュニケーション力に課題がある生徒への支援、スマートフォンやSNSの利用に係るマナーやルールの指導は今日的課題である。より充実させてほしい。 (学校評議員) ②橘華祭(体育祭・文化祭)は、負担を感じる生徒が多いならば、実施形態について再考する時期に来ているかもしれないと考える。 (学校評議員) ②部活動で上位大会に出場すると横断幕掲げているが、部活動以外にも活躍する生徒がいると聞くので、同様にPRするとよい。 (学校評議委員)	①SC・SSWを前年度以上に活用し、生徒のみならず、保護者への「個に応じた相談・支援」体制の充実も図ったが、次年度に地区SC配置が変更される予定であり、確実な相談体制の継承・発展が課題である。 ②安全な部活動に係る啓発を充実させ、重大事故発生を防止するとともに、体育館にAEDを増設して普通救命講習をより効果的にいかせるような環境整備を図った。今後は、交通安全をはじめ、地域にも貢献できる生徒の生命尊重意識の高揚に向けた教育活動の充実が課題である。	①本校の特徴である充実した学校行事を継承しつつ、ニーズに応じ、教育相談コーディネーターを中心にSC・SSWを交えたケース会議の開催を増やすなど、支援体制のより一層の充実に努める。 ②引き続き生徒への啓発機会を確保して部活動の重大事故を未然防止するとともに、PTA交通安全委員会と連携し、登下校マナーや交通安全意識の向上を図る。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①より高い進路実現に向けた計画的な学習を促す支援・指導の充実を図る。 ②進路指導に係る最新の情報収集に努め、組織的な進路指導の充実を図る。	①1学年から3学年までの継続性を重視した3年間の進路計画を構築する。 ②収集した情報の共有化に努め、効果的に活用して指導する。	①1・2学年の進路ガイダンス回数を増やすとともに、既存のガイダンス内容も深化させる。 ②活用法の研修会やデータの分析ガイドなどを行い、組織として活用できるようにする。	①ガイダンスを新設し、各学年に必要な意識づけができたか。 ②模試データの活用や入試説明会情報、生徒面談による情報などを必要に応じて共有できたか。	①ガイダンスを11回から14回に増やし、実施時間も拡大するとともに、模試をはじめ各年次に必要な内容を設定した。 ②活用法研修を複数回開催したほか、必要に応じて新たに勉強会も開催し、情報を精査し共有することができなかった。 ③新しい大学入試の制度について、全職員が認識を新たに、適切な情報を共有することで、指導体制の充実を図る。	①定期的を導入することになった模試や英語検定について、受験前後の指導体制を整え、学校としての一貫した指導体制を構築する。 ②新しい大学入試の制度について、全職員が認識を新たに、適切な情報を共有することで、指導体制の充実を図る。	①より高い進路実現について、地域では大きく期待している。生徒の進路希望を叶えられる学校にしたい。(学校評議員) ②職業観を幅広く養うため、高校でのキャリア教育の一環として、大学進学後の学部・学科に応じた具体的な就職に係る情報を伝える必要があると感じる。(学校評議員) ③大学一般受験の現実的な難度を情報として得ることができなかった。学校の進路指導で、より具体的に伝えてほしかった。(学校評議員・保護者)	①3年間を見通した模試受験スケジュールの確立をはじめ、大学受験指導体制の充実を図ったが、模試や英検等を効果的に受験し、成果をあげるための総合的な指導体制の構築が課題である。 ②昨年同様の職員研修会を開催したが、次年度入学生(第73期生)が受験する「大学入学共通テスト」をはじめ、新しい大学入試制度に係る組織的な指導力の向上が課題である。	①進路支援グループを中心に関係各機関から情報を収集し、模試データを活用した効果的な指導方法をはじめとするガイダンス機能の充実を図り、指導体制を構築する。 ②外部の説明会や研修会に積極的に参加し、最先端の情報獲得に努めるとともに、教職員のみならず、生徒・保護者に確実に伝達する。
4	地域等との協働	①創立110周年を節目とした、地域や保護者との新たな協働体制を構築する。 ②地域と連携した防災活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①昨年の周年行事の成果をいかして地域・保護者との協働体制をさらに推進する。 ②防災活動をはじめ種々の連携事業を推進し、より強い信頼関係を構築する。	①校史資料室の有効利用とそれを生かした教育活動の教育課程への位置付けを検討する。 ②より多くの生徒が参加できる地域貢献活動を設定し、地域と学校の交流をさらに深めるとともに、振り返りによって生徒の地域貢献意識の高まりを検証する。	①校史資料室の具体的な活用方法を設定することができたか。 ②地域貢献活動への生徒の参加人数が増加し、地域との交流は深まったか。振り返りによる検証を実施したか。	①校史資料室の運営や資料の保存について、専門家から意見聴取して具体的な方法を検討し、記念誌を1年生に配付して愛校心高揚を図った。 ②地域貢献活動に900人以上の生徒が参加し、地域の餅つきや防災訓練にも部活動単位で参加し、地域貢献に対する生徒の意識向上につながった。	①日常的に資料室を訪れる生徒は見受けられず、教育活動への具体的な活用方法を見出し、実践することが今後の課題である。 ②地域のニーズに、より則した活動内容と活動時期の設定が今後の課題である。	①大津コミュニティセンターが主宰した「夏休み子ども教室」で、科学部員が講師となり、小学生を楽しく指導し、大きく貢献してくれた。大変有り難い。(学校評議員) ②12月の町内会もちつき、3月の防災訓練など、運動部員の協力で助かっている。体育祭の打ち上げ花火を楽しみにする地域住民も多い。通学や駅でのマナー、挨拶など地域住民とのコミュニケーションを大切に、協力し合っしてほしい。(学校評議員)	①専門家の助言により、校史資料室の有効な活用法や維持運営に係る情報を得たが、今後は同窓会等と連携した運営体制の確立が課題である。また、1年生への110周年記念誌の配付と簡単な講話を実現したが、本格的な教育課程への位置付けが課題である。 ②2年連続で、前年以上の生徒が、地域貢献活動に参加したが、地域貢献への意識が高まったか検証することができなかった。今後は、自主的な地域貢献活動につながる啓発や指導のあり方を検討することも課題である。	①年に三回開催する校史資料室運営委員会を継続し、諸資料の教育活動への利活用や教育課程への位置付けを検討し、実践する。 ②地域貢献活動に参加した生徒の感想や、地域の方の反応をキャッチし、発信するなどの手立てを検討し、実践する。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事防止の徹底と計画的な教職員のOJTを推進する。 ②施設・設備の管理を徹底するとともに、生徒の学習環境を向上させる。	①職員研修を計画的に実施し、事故・不祥事防止に対する職員の意識向上を図る。 ②施設・設備の日常点検を徹底するとともに、改善箇所の迅速かつ効果的な手当てを実行する。	①昨年度までの取り組みを確実に引き継ぎ、職員主体の事故・不祥事防止研修会を開催する。 ③関係職員を中心に定期的な見回り・点検を実施し、異常箇所が修繕困難な場合、応急措置後すみやかに業者対応、あわせて関係室課に報告する。	①事故・不祥事防止会議を計画的に行い、職員の意識が高まったか。 ②施設・設備の問題点を的確に把握し、迅速に整備することができたか。	①事故・不祥事防止会議を、職員会議等を活用して23回開催、職員の意識を高めた。 ②施設・設備の定期的な点検を実施するとともに、修理・改善が必要な点を把握して関係部署に対応するための費用の配当を要求した。	①今後も同様の取り組みを継続し、事故・不祥事防止に向けた意識を高めていく。 ②老朽化に伴う施設・設備の問題点に常に気を配り、迅速に対応していく。校内での修繕が難しい場合には関係部署と連絡を取り業者対応、設備の更新を行う。	①想定できる事故・不祥事について、研修・防止会議を引き続き行ってほしい。(学校評議員) ①初期対応や判断を要することも多くあるように心がけてほしい。(学校評議員) ②点検のルーティン化の定着とこれぐらいは使えと思うのではなく、気になる所は必ず関係部署に伝える組織的な取り組みを行ってほし	①二年続けて、前年度を上回る事故・不祥事防止会議を開催し(23回)、不祥事を効果的に防止した。次年度以降の継続と研修会を年度の早い時期に開催することが課題である。 ②今年度は大規模な修繕を必要としなかったが、常に生徒の活動場所の安全が確保されるよう、日常的に点検する必要がある。	①引き続き、不祥事防止の取り組みを確実に実施し、計画的に職員主体の事故・不祥事防止研修会を開催する。 ②事務職員・警備員等とも連携し、複眼的な点検と、状況に応じた修繕要請に努める。

